



公開講演会・シンポジウム「核時代を生き延びるために―「戦後70年」を問い返す」を開催

概要

九州大学大学院地球社会統合科学府では、平成28年1月31日（日）に、公開講演会・シンポジウム「核時代を生き延びるために―「戦後70年」を問い返す」を開催します。広島から元広島市長の平岡敬氏をお招きし、「ヒロシマの平和思想」を問い直す基調講演をいただいた後、日本女子大学教授の成田龍一氏と本学府の吉岡斉教授と共にシンポジウムを行い、「戦後」が残した問題といかに向き合いながら、いかなる未来を拓いていくべきかを考えていきます。

■背景

本学府では、「地球社会的視野に立つ統合的な学際性」という理念・目標に基づき、グローバルな課題に対して積極的に関与していこうとする態度と資質を有する学生を対象に、現代社会の喫緊の問題に応え、未来社会の構築に貢献する人材を養成することを目指す教育研究プログラムを展開しています。

これまで、国内外の著名な研究者や実務家を招聘し、セミナーや公開シンポジウムを開催してきました。今回の公開講演会・シンポジウムでは、地域のみならず国際的にも活躍されてきた平岡敬・元広島市長をお招きして基調講演を行っていただき、その後のシンポジウムでは、日本近現代史研究を牽引する日本女子大学教授の成田龍一氏と本学府教授の吉岡斉氏と共に、「終焉を迎えつつある戦後」と「継続する核時代」という現在の状況を批判的に捉えつつ、より公正で平和な未来の構築への道筋を探っていきます。

■内容

何度も「終わり」を宣告されながらも存続してきた「戦後」が、いよいよ終焉を迎えようとしています。「戦後」という認識を支えてきた諸前提が崩れつつある一方、「核時代」は終わりに向かうどころか危機的な展開を見せています。このクリティカルな状況の下、「戦後日本」と「核時代」のシンボルである「ヒロシマ」を問い直す基調講演を軸に、原爆投下責任、戦争責任、植民地責任という「戦後」が残した問題といかに向き合いながら、いかなる未来を拓いていくべきかを共に考えます。

○日 時：平成28年1月31日（日）13:30～17:00（13:00 開場）

○会 場：九州大学西新プラザ大会議室（福岡市早良区西新2-16-23 TEL:092-831-8104）

○主 催：九州大学大学院地球社会統合科学府

※事前申し込み不要、入場無料

○プログラム：

◆13:30～13:35 主催者挨拶

◆13:40～14:30 第1部 基調講演

「ヒロシマの平和思想再考」平岡 敬（元広島市長）

◆14:30～14:50 休憩

◆14:50～16:50 第2部 シンポジウム（質疑応答も含む）

平岡 敬

成田 龍一（日本女子大学 教授）

吉岡 斉（九州大学 教授）

◆16:50～17:00 閉会挨拶

○講演者：

【基調講演】

◆平岡 敬（元広島市長）

中国新聞記者として被爆問題、特に朝鮮人被爆者に関する先駆的な報道を展開。被爆 50 年には広島市長として国際司法裁判所で核兵器使用の違法性を陳述。主著に『時代と記憶』、『無援の海峡』など。

【シンポジスト】

◆成田 龍一 教授（日本女子大学人間社会学部）

主著に『戦後史入門』、『「戦争経験」の戦後史』など。

◆吉岡 斉 教授（九州大学大学院地球社会統合科学府）

主著に『脱原子力国家への道』、『原子力の社会史』など。

■今後の展開

大学院地球社会統合科学府は現代社会の喫緊の問題に応え、未来社会の構築に貢献する人材を養成することを目指しています。今後も、国内外で活躍する研究者や知識人を招聘して講演会やシンポジウムを開催し、より公正で平和な世界の構築に貢献する教育研究に努めていきます。

【お問い合わせ】

大学院比較社会文化研究院准教授 直野章子

TEL：092-802-5619

FAX：092-802-5619

Mail：anaono@scs.kyushu-u.ac.jp